

### ●資料全体

- ・二次対策工事では遮水壁の外側に家庭系ごみの一部を残置するという形で施工しましたので、令和元年度からその影響に関する調査を実施してきました。
- ・このたび、2年間の調査結果をとりまとめ、その評価についてアドバイザーの先生に協議した結果も踏まえてご報告します。

### ●P.2「既存調査の位置」

- ・P2～4 は平成 22～23 年度に場内の家庭系ごみの分布箇所での廃棄物土の分析を行った結果です。
- ・分析データがあるのは P2 のイ-6 とウ-7 の地点で、遮水壁を施工した付近の場所になります。

### ●P.3～4「既存調査の結果」

- ・結果は P3 が溶出試験、P4 が全含有量試験となっています。
- ・いずれも基準超過はなく、問題ない値でした。

### ●P.5～6「調査目的等」

- ・以上の分析結果から、分析した 2 地点の家庭系ごみは有害なものではないということが分かりますが、廃棄物は場所によって組成のばらつきが大きい可能性がありますので、遮水壁外に残置する部分全体の状況を把握するために、今回の地下水調査を計画しました。
- ・(P6) 家庭系ごみはおよそ図の左下の両矢印⇔の範囲にあり、地下水流向から下流側として C-7 の井戸を、上流側として C-8 と C-9 の井戸を設置して、この 3 地点でモニタリングを実施してきました。
- ・(P5) 評価方法としては、評価対象である環境基準項目について、平均値が地下水環境基準に 2 年間適合することとしています。

### ●P.7～8「調査結果」

- ・P7 と P8 に 2 年間の 8 回分の調査結果を一覧表にしています。
- ・年平均値も記載していますが、全ての調査日で 3 地点とも環境基準の超過はありませんでした。

### ●P.9「一般項目等の変動状況」

- ・環境基準項目はほとんど不検出であり、基準値に近いものもありませんでしたので、一般項目等のうち主なものについてグラフにしています。
- ・電気伝導度は下流の C-7 で上流よりやや高くなっていますが、100mS/m 以下で推移しています。
- ・COD は概ね 5mg/L 以下で推移しており、安定型最終処分場の浸透水の基準 (40mg/L) と比較しても低くなっています。

●P.10～11 「調査結果(イオン組成)」

- ・年 1 回でイオン組成の調査も実施しています。
- ・下流の C-7 では揚水ピット（浸透水）と形が似ているため、遮水工事前に出た浸透水の影響が残っていると考えられます。

●P.12 「評価および今後の対応」

- ・令和元年度～令和 2 年度に 8 回の調査を実施し、地下水環境基準超過は一度もありませんでした。
- ・そのため、遮水壁外に残置した家庭系ごみの範囲に起因する有害物質による周辺地下水の汚染はないものと考えられます。
- ・有害物質による汚染が確認されなかったため、今後は下流の H24-2(2) (および H24-4(2)) でモニタリングを行い、異常がないことを確認していきます。
- ・また、家庭系ごみの安定化状況を確認するため、電気伝導度や孔内温度等を試験的に調査し、今後の調査の必要性や調査手法の検討を行います。

●P.13～14 「アドバイザーからの意見」

- ・アドバイザーの先生にいただいたご意見を P13 と P14 にまとめています。
- ・(P13) 全体として、いずれのアドバイザーの先生とも、有害物質の汚染がなかったため、今回の C-7～C-9 の 3 地点での調査を終了し、今後は下流で調査することでよいというご意見でした。
- ・(P14) 家庭系ごみの安定化状況を確認した方がよいということで、電気伝導度の調査や、ガス、地温の調査を提案していただきました。